

勉強会

自然保護の大切さを再認識 2010.12/4



【講演者】

矢部 玲子 氏 札幌学院大学講師・当会会員
「ネーチャーライティング」

市川 利美 氏 ナキウサギふあんくらぶ代表
「ナキウサギの保護から森の保護へ」

矢部さんのお話は、テーマの「ネーチャーライティング」の意味を知らない会員が多かったのですが、自然を観察しながら絵を描き、詩を作り、川柳や俳句を作る、その中から自然保護の大切さを認識していくのだという有意義な講義でありました。私たちは毎回清掃活動時のバスの中で、尾崎副会長から川柳の手ほどきを受けており、すでにネーチャーライティングを実践していました。改めて自然を観察する事の重要性を感じた講義でした。

市川さんのお話は、ヤンバルの森が国や企業によって壊され希少生物や動物が生息できない環境に変わりつつあること。大雪山国立公園の森が、一部皆伐され禿山になっている現状などをスライドで目の当たりにし、自然保護・環境保護を強力に推進している市川さんや仲間感動し、皆活発に山の事から海の話を話し合いました。その中で、一番驚いたことは、開発建設部が、河川流域の木が流木となって、漁業被害をおこすからとの理由で、伐採しているとの事。川をコンクリートで固め水中生物の棲家を壊した上、木陰を造ったり栄養ある木の葉を落として水中生物を守っている、河畔林を伐採しているとの報告でした。皆あきれていました。

今日の勉強会はマスコミの報道では分からない事が沢山有り、それらを知る事の重要性を勉強しました。私たちは海辺のゴミだけではなく、街や川のゴミにも関心を寄せ、積極的に海のゴミの発生抑制をしなければならぬと思います。皆にしらせようっと。



12月4日は、設立10周年を記念し忘年会をあわせてお祝いの会食もしました。